

会報

NO. 94

2024.7.20 発行

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

94回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ：『どうする！尾張密蔵院一国指定重要文化財の危機』

講師：田村 圓心 氏（尾張密蔵院院主）

6月29日（土）94回「ふるさと春日井学」研究フォーラムを市民活動支援センター（ささえ愛センター）で開催しました。

5月30日・6月1日付け中日新聞、「多宝塔売却、泣く泣く競売するしか」の記事で事の次第を知りました。密蔵院は、ふるさと春日井の「魅力・特色」の代表で小野道風・棒の手と並んで市民会館緞帳に描かれています。重要な文化的財産でもあります。昭和生まれの年代の人々にとっては、遠足の定番コースであり、心のふるさとでもある場所です。今一度「密蔵院」の文化的価値について知り、問題を考えたいと思います。市民55名の参加があり関心の高さが感じられました。

重文の塔 泣く泣く競売するしか

春日井の密蔵院 区画整理で清算金困窮

14世紀に創建された密蔵院春日井市熊野町の天守寺の密蔵院が、国の重要文化財（重文）の建造物「多宝塔」の売却を検討していることがわかった。周辺の土地区画整理事業に伴う多額の清算金を求めるべく、寺が密蔵院の多宝塔を売却する意向を示している。寺の代表者は「多宝塔は、密蔵院のシンボルであり、国の重要文化財として大切にしたい」と話している。

密蔵院は、春日井市熊野町にあり、14世紀に創建された密蔵院春日井市熊野町の天守寺の密蔵院が、国の重要文化財（重文）の建造物「多宝塔」の売却を検討していることがわかった。周辺の土地区画整理事業に伴う多額の清算金を求めるべく、寺が密蔵院の多宝塔を売却する意向を示している。寺の代表者は「多宝塔は、密蔵院のシンボルであり、国の重要文化財として大切にしたい」と話している。

密蔵院は、春日井市熊野町にあり、14世紀に創建された密蔵院春日井市熊野町の天守寺の密蔵院が、国の重要文化財（重文）の建造物「多宝塔」の売却を検討していることがわかった。周辺の土地区画整理事業に伴う多額の清算金を求めるべく、寺が密蔵院の多宝塔を売却する意向を示している。寺の代表者は「多宝塔は、密蔵院のシンボルであり、国の重要文化財として大切にしたい」と話している。

2024年(令和6年)5月30日(木曜日)



尾張名所図会

《講演要旨》

本日は、お呼びいただいて大変ありがとうございます。新聞に今回(重要文化財多宝塔の売買)の記事が掲載され大変ですがよろしくお願ひいたします。

テーマの説明に「今一度密蔵院の文化的価値について知りたい」とあります。

密蔵院は創建して約 700 年の歴史があります。言い換えれば、嘉暦 3 (1328) 年の鎌倉後期から、室町(南北・戦国)時代、安土桃山時代、江戸時代、明治時代、大正時代、昭和時代、平正時代、そして今日(令和)まで密蔵院が存在している歴史文化そのものに価値があると思っています。それだけです。

お寺というのは歴史文化の資料が詰まっています。密蔵院という名前は、当時の後白河法皇の病気を治したということで、祈願をして病気を治したお礼に「密蔵院」という院号をいただいたわけです。

創建当時の名前は、医王山薬師寺です。密蔵院という名前は、全国的には約 600 位あるので、春日井市の密蔵院は尾張密蔵院と言っています。何故、尾張と言うかということ名古屋城(尾張の国)を護る祈願所という立ち位置ですね。京都でいうと京の都を護る比叡山延暦寺、東京で言うと江戸を護る寛永寺と増上寺が祈願所の役割を現在でもそれぞれの寺院は果たしています。

春日井市の密蔵院は、名古屋城の三の丸に尊寿院というお寺を持っています(尊寿院の懸仏も文化財として保存しています)。そこへ、駕籠に乗って行っていました。江戸城にも参内しており、石高の位を戴き武士と同じ扱いをされていました。つまり密蔵院のオーナーさんは、名古屋城の尾張徳川家でした。ですから、徳川の歴史の中で、お亀の方(徳川家康の側室)の碑もあります。

その当時の生活の記録が文書の中に歴史文化として埋もれています。文化財がどうのこうのという表面的なことではなく長い歴史の庶民生活の中に尾張の歴史文化、そして現在の春日井市の歴史文化があるということです。

名所図会を写してくれますか。祈願所として密蔵院が出来ました。この場所に何故創建されたのかと言うと、聞いている話では、庄内川に龍がいて、暴れて困る、だから抑え込もうとしました。川の氾濫などの自然災害を龍神が暴れると表現していました。川底も深く交易も盛んでした。対岸の竜泉寺にも船着き場があったそうです。その庄内川には流れ橋があり洪水の時には橋を流していたと聞いています。その他にも当時の政治的や地政学的な判断があったと思います。

名所図会を見てください。正門の後ろ(境内の中)にもう一つ門(多宝塔の横)がありました。今はありません。両側に仁王さんが配置されていたそうです。楼閣のあとがあります。そこを歩いて本堂(移築されて残っていません。現在は文化財の所蔵庫です)跡に突き当たります(現在は名所図会の案内看板となっています)。また、大きなものではなく小さな仁王さんですが、後白河法皇から戴いて現在は文化財になっています。その中門を歩いて開

かずの赤門(晋山、退山、又は山主の葬儀の時のみ開く)があり書院(現在の本堂)へと続く格式のある寺院であることがうかがえます。その門に後白河法皇から戴いた密蔵院の扁額が懸かっています。本物は畳の約一畳ほどの大きさが保存されています。

密蔵院の正門の前には参道があり、そして庄内川です。そこに港がありました。そこに、今日で言う役所的役割の部署があつて、どんな荷物が入ってきて、どのような人が出入りしていたかを、チェックしていました。また、当時の地域の人たちが生活に困った時などは密蔵院が、その人たちの世話をしたり娘さんたちを奉公に出したりというお世話を行っていた文書類も残っています。

そして、密蔵院の寺領とともに日光東照宮の天海さんの寺領もあつて天海さんの働きかけもあつて、密蔵院のバックアップもしてくれています。尾張徳川家から千両箱が来ていたと思います。尾張徳川家にとっては重要な祈願所であり密教的にも地球の臍にあたる場所としても大切にされ、地域護持の為の祈願所であります。

もう一つは、お坊さんの世界では、お坊さんを育てる寺院(葉上流灌頂道場)。今日で言う大学のようなところでした。そこで勉強をして、国家試験を受けて合格をすると印可状という卒業証書をもって各地へ行って、お坊さんの仕事をする、又は行政の仕事もする。つまり、密蔵院は人材育成の場所であり行政的な寺でもありました。

遠くに見える山(春日井三山)も密蔵院のお坊さんの修行場所でした。近くには妙見寺という寺もあり、護摩を焚いたり山の中を走ったりして修業をしていました。比叡山と言う回峰行にあたるものです。

当時の密蔵院が大きいとか、小さいとかではなく春日井三山も含むくらいを修行道場(約3000人)として統括管理していたという記録もあるわけですから、相当の力をもっていたと思います。尾張徳川家がオーナーとして補助金を入れてくれていたので護持できていたことができます。密蔵院が最盛期の頃には七堂伽藍を中心に七つのお寺がありました。今は、最後の一ヶ寺が外門の近くに常泉寺の跡地(現在は借地)として残っているのですが、大留町に転居されています。

長い歴史の間には、他人に管理(熊野持ちの墓地)をお願いしたらその人の物になっていたと言う話があります。それは、歴史だからしょうがないでしょう。もっと言うと名古屋城三の丸の尊寿院が廃仏毀釈で無くなる時に尊寿院から数々の宝物が密蔵院へ運ばれてくるんですが、その途中途中で、休憩をするたびに散逸してゆくんです。私がここへ来てかれこれ20年になりますが、いろいろなお坊さんと顔見知りになって、これは、密蔵院から借りてるんやぞとか、言われます。今更返してくれとは言わないけれども歴史の一環として受け止めております。かなり多くのものが散逸していつているのは事実です。前の住職さんは、自分でお金をためて買い戻しているんです。かなりのものを買い戻されているのですが、ご苦労なさっておられます。

その後も散逸していくのですが、近年にも散逸がすすみ、近所の古老に聞くと、ここの襖の取っ手は昔は金だったんだけど今は、金ではないとか、鴨居のところにも金細工があ

ったけど今は無いねとか、昔のことを知ってる人に聞くとかなりお寺の中は、荒れているということです。寺の梵鐘は戦時中に供出(現在は新調)があったりと長い歴史の中で散逸したり盗まれたりしていつているということで、しょうがないです。

歴史ですから。お薬師さんの両脇にある日光月光の日光がどこそこにあるということが分かっていても買い戻せなかったみたいですね。おそらく金額が折り合わなかったんでしょうね。そうやって散逸していったものは、山のようにありますけれども物質はお金になるものですから散逸してしましますが、お金にならないものは「文書」です。

これが一番大事なところで、「文書」が山のように残っています。その文書を紐解いてゆくと、安藤直太郎さんが調べてくれたものだけでなく、もっと深い歴史文化が発信できるのかなと思っています。それは、密蔵院が修行道場(歴史的人材育成の大学)であり行政的寺院でもあったからです。

例えば、禅宗の道元さんが修行していたということは、誰も知りません。その時に道元さんが身に着けていた墨染めの衣と応量器というものがあります。これも誰も知らない。そういう知らないものが沢山あります。それから、皆さんがよく知っている織田信長の直筆の文書もあります。そういうものを紐解いていったらまだまだ出てくると思いますよ。

令和6年7月3日に発行される新紙幣の津田梅子さんと津田家の繋がりのお位牌と言われるものもあります。又、徳川家の厨子や暴れん坊将軍(八代吉宗)のお位牌もあります。

これは、天海さんが、将軍が亡くなった時に、今回は日光東照宮で、今回は密蔵院で供養しようと取り決めていたためにお位牌があるという伝承です。

密蔵院は、掘り起こせば本当に宝の山なんですけれども、たまたま、安藤直太郎さんに歴史を掘り起こしていただいて、密蔵院を引っ張り上げてくださったんですね。

密蔵院は修行道場ですから曹洞宗開祖の道元さんはじめ真盛宗開祖の真盛上人と言う方々も勉強しに来ている。天台宗の比叡山の座主になった僧もいます。それも紐解かないと解らない。また熱田神宮との関係も深い。

そういう長い歴史の中で密蔵院が果たした役割は、人を育てることでした。人を育てる学問所というのは収入がないわけですから、徳川家から千両箱を運んでもらっていたわけです。密蔵院にはお金があるぞということになると人が寄ってきます。お金がある時は寄ってきます。今はお金がないから誰も寄ってきません。反対に七堂伽藍の外側にあったお寺さんが自分たちの管轄していた人たちを連れてどこかえ引っ越す、どこかえ引っ越されて、そちらの方々が裕福になるという状態です。

学問所というのは、どちらかというと潰れてゆく傾向にあります。しかし、700年の歴史文化の経過を掘り起こして密蔵院の役割を再認識をして、これから先の時代の使い方をどの様に活用したらいいのかなということを考えてくれたらいいのですけれども、残念ながら檀家は29軒しかありません。だから、屋根を修理するにしてもお金が足りません。私が平成13年に密蔵院へ来て、14年に晋山したときは、30年に一回の多宝塔の屋根の葺き

替えがありました。3000万～4000万円の費用が掛かりました。密蔵院は1割の負担をしなければなりません。400万円を用意しなければなりませんでした。比叡山からきたばかりの私にお金がありません。比叡山の私の師匠の信徒さん達にも協力して戴いて、やっとこさでお金をつくり平成14年の屋根修理を完了しました。

ところが、もうすぐにも30年近くなるので再び費用がかかります。それと共に改築保存しながら付帯設備というものも設置しなければなりません。去年になって消防施設の放水銃も増改修しましたがこれも、3000万～4000万掛かりました。補助金は出ますけれども、密蔵院も400万から600万というお金が出てゆきます。だから、常にお金の工面に負われて、寺の修理まで回らないですね。

私が平成13年に来たときは金が無い、寺の運営資金を私の師匠から借金をし、私の友人から借金をしてということで現在までは回っています。だから今は、借金だらけですね。しかし、それは、その住職になった住職の責任ということになっていますから四苦八苦しながら金策して護持しないといけないんですよ。

そういうことをしながら何とか、何とかここ20年やってきたのですが、どうしても無くなった、それが、先日新聞に載っていた区画整理の話になります。ここでは、区画整理の詳細な話はしませんが、私は区画整理には大賛成です。

町が住みよくなればよろしいですもんね。大賛成でしたけれども区画整理のことを法律上全く知らないのので区画整理組合の担当の方には「法律の相談や説明もして下さいね」と言っていましたけれども、区画整理が始まって9年間はほったらかしの状態でした。組合の説明は「当時の担当の方が亡くなって」と言う説明だけでした。

密蔵院としては、全く寝耳に水の状態(当初からの疑問質問は継続しているのとばかり思っていましたからね)。とどのつまり新聞に載っているようなことになりました。

で、こんどは、ここの話(名所図会による外門から庄内川までの参道)ですが、この参道が今の法律では0番地ということになっています。誰のものでもないよということになってしまっています(結果は春日井市の管轄)。この参道はむかしから密蔵院の参道ですよ、関係各所に言っているんですが、未だにお答えが返ってきません。

これからどうなるのか分かりませんが、こっちもさっちも行かない状況です。ここの参道を区画整理の清算金に入れていただければ、清算金が減るだろうと思っています。

前向きに考えて欲しいと言っているだけで、どうせよ、こうせよとは言っておりません。この計算をして欲しい。密蔵院を保存しよう、歴史文化を保存しようという意向が働くなら、これ以外の土地もあるので、区画整理だけで考えるのではなく(文化財保護による環境整備等)、もっと行政の高いところから考えてくれて、この際だからそれらの土地を全部ここに寄せて頂けたらどうですかという話をしています。

その返事も未だに来ていません(最近になって組合の担当者から、無理との返事がありました)。それで、こっちも、さっちもいなくなりそうでしたから、それなら多宝塔を売らましようかという話になりました。最初8300万円の清算金を聞いてびっくりいたしましたし

た。市認定の道路(登記上は密蔵院)は取られるは、土地は 3 割取られるは、普通に考えれば、お金が入って来なくてはいけないはずなんですが、結果 8300 万円の請求が来ました。又、相談無く敷地内に道路が入ってきます。

そこからです、粘り強く歴史の話をしたのですが一向に解決の光は見えません。

何だか歴史は関係ないということでした、土地の整理のことについてのみをやっているので歴史、文化は関係ないということでした。最初に区画整理で示された時は、遊歩道(緑道)なのでと言う説明によって歴史のある正門の出入りができなくなりました。もう一か所は戦後駐留軍が道路を作った土地が密蔵院の土地であるはずが区画整理組合の土地(10 分の 9)であるということになってしまっていた。おかしいと言ったら、それは、法律ですと言われ納得のいかない状態になっています。多宝塔の前の道も出入り禁止、庫裏の前の道も出入り禁止、どこから出入りするんですかという状態になりました。

このことは、区画整理が始まって 15 年丁々発止やってまいりました。(組合の担当者の話では)最近になって正門の駐車場と出入りの許可を市長(組合の理事長が掛け合っ)が認めたので出入りが出来るようになりました。(法律では遊歩道は絶対に切れないということでしたが?)

15 年掛かりました。最終的には 8300 万円が 3800 万円まで下がりましたがそんなお金は御座いませんということで、多宝塔を売るしかないですねということになっているのが実情です。

明治時代の文書では参道は密蔵院のものであるということになっているのに、何時の間にか、0 番地になってしまっている。そのことを県に話をしますと、それは春日井市に移管しましたから市の問題ですといているので、今は市と話(組合をとおして)をしているんですけど一向に動いてくれません。最近になって組合の担当の方が「県からの移管なので県に聞いてくださいと市が言ってる」との返答がありました。密蔵院としては、県に聞きに行かなくてはいいけません。(なぜ市の行政は県の行政と話をせずに一市民に県に聞くようにと言うのか、市の行政が仕事をしないのか意味が分かりません)。とどのつまり、新聞に載りました。今度は動きました。

文化財課が事情聴取に来ました(文化財売買の手引き書を持って)。それまでは、文化財課も一切関係ありませんという姿勢でした。私が抵抗せずに、いいよ、いいよと言っていたらそのままだったと思います。

しかし、私のなかには、何かしら踏ん切りつかないものが残っております。おかしいだろうと、700 年の長い文化、歴史を持つるものをそういう風に扱うのかなということが疑問です。(文化財のある地域の区画整理は文化庁に報告がされなければならない法律があるはずですが、私の手元にある春日井土地区画整理の会議の出席者には文化財関係者の名が見当たらず、おそらく文化庁には報告連絡はされてないと思われます。)

密蔵院の声は、約 15 年の長きにわたって組合に言ってきましたが、小さな声は全然通じません。新聞に載った途端に市役所も文化庁も市議も愛知県議も寺院も僧侶も関心を示し

ました(春日井市の市議の方々からの問い合わせは全くありません)。文化庁には随分前から公文書、報告書を挙げているんです。

何とかならないかと言っているんですが、一向に動いてくれませんでした。丹羽さん(丹羽秀樹衆議院議員)のところへも行きましたけれども全くノータッチでした。

ああ、個人の力というものはこんなものだなと思いました(行政とは、何だろう?です)。私的には、にっちもさっちもいかない状況ですし時期が来れば 3800 万円を支払はなくてはならない、組合が終るころには全額一括支払いだそうです。以上がこれまでの概要です。

今の市長がどこかの講演で「文化、歴史を大切にしない地域は発展しませんよ」ということを聞いたように思いますが、行政の中の動きがどうなっているのかまでは私は知りませんが、歴史文化に理解のある市長の姿勢に期待(横串を入れて前向きな対策を立ち上げて戴きたいですね)したいですね。

区画整理が始まって以来、約 15 年間文化財を護ってゆこうと思って組合と話し合い、折れるところは折れ納得するところは飲んでやってきました、でも何ともなりませんでした。

そして、文化財を売ろうと決めた時に、ありがたいことに、その時に、福島原発で放射能の酷かったところの被災した小学生の子供たちを夏の間だけですけど密蔵院に来てもらって「雨にも負けず」という NPO をつくって 7 年間、お世話させていただきました。その先頭を走っていた市会議員の方が亡くなってしまって、終わってしまいました。そういう活動をさせてもらって当時の福島の市長、村長さんもお見えになり、春日井の立正佼成会はじめ、禅宗のお寺さんからも金銭的支援を受けて何とか 7 年間乗り越えました。その活動時にご縁があった関係している人がお参りに見えて「久しぶりですね」といって、現状をお話ししました。すると、親身になって動いていただきました、その方は、愛知県議の方です。その時は、ああ、お薬師様(神か仏)かなと思いました。

そして、15 年辛抱して、7 年間の縁を結んで、やっと動くかなと思いました。自分でここを護るのではなく、売ろうと決めた瞬間にそういう人が現れて動き出してくれました。その後新聞にでました。すごいですね、個人の意見じゃないですよ、新聞に出た公の意見で行政が動いたということですが、どこまで動いているのかは、未だに行政との接点がないので分かりませんが、これからどうするのかなあ、ということです。

全国で問題を抱えているお寺さん、神社さんは、ほとんど歴史から消えていきます。しかし、神社が出来るとか、お寺が出来るということは歴史文化的に見たら住んでる土地の色々な考えがあって、地面の下を流れている水の流れとか、色々な、気の流れとかいうか学問があって、結界を張るといった色々な方法や祈願的なことがあって地域護持の為に創建されている訳ですが、今の世の中は目先の利益を優先するようです。

そう言った、地域を護る寺として約 700 年の長きに渡って存続している密蔵院、尾張名古屋の祈願所である密蔵院、人を育てる大学である密蔵院、そういう歴史の中で色々な人が出入りした禅宗の道元さん、織田信長、名古屋城のお亀さん、その他の色々な歴史文化人が歩み、通過して、歴史文化として経過して地域が発展して今に至っている春日井市。

(奈良の斑鳩の池の周りの寺院がその昔には必要なしとして廃寺される計画だったそうですが、志のある人々によって保存継続されることになり、今の(未来の)奈良が観光地として存続していると言うことを聞いたことがあります。その時の判断が現在の奈良を造っていると言えます。)

しょうがないんでしょうか?、と言って密蔵院は消えて行っていいんですか? ということを感じている(多宝塔は売ってもいいのでは、と言う発言をしている春日井市の行政関係者がいるということが聞こえている。その原因を知らうとしない)。

しかし現在の私は、密蔵院の住職ですから、責任を感じていますから、何かが違うだろうと、護持の為に、今、四苦八苦しているのが状況です。

多宝塔が何故密蔵院にあるのかということですが、人を育てる修行の道場と言いましたが、これは、法華経の中に、多宝塔が地面の中から出てくる場面があります。お釈迦様が説法していると地面の中から多宝塔と言うものが出てきてその中に多宝如来が座っていて、お釈迦様と二人で並んで座って説法が始まります、それを聞いていた人達が、法華経の表現ではあるのですが、志のある菩薩さんが地面の中からドンドンドンドン出てきた。

これを地湧の菩薩と言うんですけども、そういう志のある人間が沢山出てきたと言う話です。法華経を信じて世の中を幸せにしようという、人間を育てようということで、修行道場のシンボルとして多宝塔が密蔵院にあるということです。

菩薩(世の中の役に立つ人材)を育成するにあたって、密蔵院は葉上流という禅宗の栄西さんの流れを汲んでいるので天台宗の密教寺院でありながら禅宗様式の多宝塔になっているということです。本日は、お話を聞いて頂きありがとうございます。(記録編集:河地清)

(収録された原稿を田村圓心氏に校正編集していただきました)

OPINION 地域の遺産(文化財)が護れない異常な風景

Heriperty(heritage と property の合成語)東大名誉教授月尾嘉男氏が唱えた言葉です。平成 26 年 4 月 5 日(土)春日井市東部市民センターで講演『情報化時代とまちづくりー100 年単位の目標転換ー』の中で語られました。遺産(heritage)は地域の資産(property)である。文化、歴史を大切にしない地域に未来も発展もないということを言っています。国宝級の文化遺産を護れない状況は何かがおかしいのでは。正常な状況ではないのでは。「何がそうさせているのか」「誰がそうさせているのか」 真実を市民は知りたがっている。

土地区画整理組合も行政も 20 年近くも善処への努力を怠ってきたことは、田村氏の「にっちも、さっちも行かない」の言葉に凝縮されている。歴史文化を大切に、地域の財産である文化財を護るといふ考えがあれば、解決は難しくはないのではないか。事ここに至った今日、関係者の不作為の責は免れないのではないか。今後の動きに注目して行きたい。(文責:河地 清)

かすがい市民活動情報サイト: <http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学 検索 